

# 2部

フィールド フィールド  
現場から現場へ

---

# 通信教育部での3年の学び

OB MESSAGE

通信教育部社会福祉学科卒業生 角尾 慎介

## 60代での大学編入

私は現在、66歳。数年前の父の死を契機に、介護に興味を持ち、まず介護職員初任者研修（前ヘルパー2級）を受講しました。更に、社会福祉についてより深く学びたい、社会福祉士資格を目指したいと思い、3年前、東北福祉大学に編入学し今年3月に卒業しました。

通信教育というと、自宅で教科書を読み、課題のレポート提出、教科ごとの試験を受けて単位を修得する方法が一般的ですが、私は年齢も考え可能な限りWeb講座（オンデマンド）とスクーリング（仙台と地元の東京）を中心に進めました。

## 充実した学び

元来3年次からの編入で、2年で卒業の予定でしたが、結果として3年かかりました。レポートの提出では、やさしくも厳しい先生方のご指導（再提出、再々提出）を再々にわたりいただき、何回かくじけそうになりました。それでもなんとか卒業できたのは、先生方から、オンデマンドではWeb上で、またスクーリングでは実際に教室で直接ご指導いただき、通信教育というよりは、ほとんど全日制の大学の学生生活に近い方式をとることができたからだと思います。

このオンデマンドシステムは私が東北福祉大学を選んだ最大の要因でした。また、スクーリングでお会いした同級生の皆さんからは、通信教育を進めていくうえで必要な情報や、くじけそうになる心をもう一度奮い立た

せてくれる刺激もいただきました。個人的には、スクーリング後に学生会等が開催していた反省会に、もう少し厚かましく参加できたらもっと良かったのにと大いに心残りを感じているところです。

また、仙台は昔から大好きな街で、東京からのスクーリングのたびに、時間を見つけ、青葉城、広瀬川等を散策し、時には、スクーリングに遅刻しそうになったのもいい思い出です。

## 実習体験

---

実習先は、当初社会福祉協議会、障がい者施設等を希望しましたが、予想した通りにはなかなか決まらず、いろいろ悩んだ時期もありました。最終的には、通信教育部の先生方、職員の方々のご指導、ご支援をいただき、地元の障がい者施設（就労支援B型）で実習となりました。

施設での実習は、施設に入ることも生まれて初めてだった私にとって驚きの連続でした。まず、初日朝から、利用者の大声・ジャンプ・突然のダッシュ等のパワーに圧倒され、本当に無事に実習を終えることができるのかと大いに不安を感じたものでした。しかし、施設の職員の皆さんはそのような利用者のパワー・突然の動きにも、沈着冷静に対応、何事もなかったかのように事態を解決して、利用者全員がスムーズに通常の作業を遂行できるように支援をされていました。一人で対応ができないとすぐ複数で対応する等、チームワークがすばらしい施設でした。当初は私も当施設の職員と同じようなことができるか、全く自信がありませんでしたが、その都度、職員の方々のご指導をいただき、利用者一人ひとりをしっかり理解して、利用者との信頼関係を構築し、職員同士が協力してやっていく当施設の体制を学ばせていただき、少しずつ対応ができるようになりました。

また、施設の全職員の思いが、「利用者第一」で一つとなっており、組織の一体感を大いに感じました。職員各々が自身の社会福祉に対する思い

を持ちながら、ケア会議等の会合では意見伯仲させ、各々の利用者のために今何が大切か、その利用者の日常の活動とその将来への思いを全員が共有していろいろな活動に取り組む明るく風通しの良さを感じました。

実習期間中には担当教員による巡回指導と帰校指導があり、いろいろな問題や疑問点を即時に指導いただけたり、同じ時期の実習生と経験談を発表し合う機会があったり、とても素晴らしい体験となりました。特に同じ境遇にいる実習生からいい刺激をいただき、実習を積極的に効果的に進めていくことができました。

また、実習時に指導者からいただいた「指導は支援ではありません」の言葉は、これからも大事に守っていきたいと思っています。

## 国家試験　そして今

---

実習を終え、一方で、卒業に向け、たくさんのレポートを仕上げないといけないうえに国家試験に向けた学習も始めなくてははいけませんでした。夏の終わりの頃でした。

春に東北福祉大学の国家試験対策講義を受講した際、先輩卒業生のお話にあった日本社会福祉士養成校協会（現　日本ソーシャルワーク教育学校連盟）のWeb講座（教科書は実費、Web視聴は無料）を申し込み、毎日、ひたすら、何回も繰り返し聞きました。Web講座の18人の先生方のお話を途中のコーヒブレイクの内容まで頭に入るように一生懸命聞きました。勉強方法はいろいろありますが、私はこのやり方があっていました。皆さんもそれぞれのやり方で目標に向かってがんばっていただきたいと思っています。

今、社会福祉士のスタートに立ったばかりです。この先、いろんな経験をし、挑戦していきたいと思っています。

「皆さんの周りに『社会福祉士』はいますか？」、「『社会福祉士』と会っ

て話をしたことがありますか？」という質問を街頭で行ったら何%の人が「はい」と答えてくれるでしょうか。まだまだ世の中の認知度は低いです。世の中には絶対に必要な存在だと思えます。みんなで一步一步前進し、近い将来、「東北福祉大学出身の社会福祉士の皆さんと一緒に活動できたらすばらしいな」と思えます。

卒業式の日、通信教育部長からいただいた言葉を今モットーとしております。それは、ATM（銀行の自動支払機ではありません）、「明るく、楽しく、前向きに」です。

皆様のご活躍をお祈りいたします。一緒にやりましょう。お待ちしております。

最後になりましたが、一緒に切磋琢磨した学友の皆さん、大学の諸先生方、通信教育部の職員の皆さん、家族等、この充実した3年間を支えてくれたすべての方に心からの感謝を申し上げます。ありがとうございました。謝謝！再見！

## スクーリング・アンケートより(1)

アンケートより、スクーリング講義の感想を抜粋しました。

### ●公的扶助論 阿部 裕二 仙台

- ・先生の授業の進め方がとても良く、具体例をたくさん用いて私たちがよりよく理解できるように細部にわたり構成されていました。とても楽しく興味を持って授業が受けられました。
- ・教科書だけでは理解できなかったことが、スクーリングでとても分かりやすく説明され、公的扶助の目的、セーフティネットの意味するものが分かりました。公的扶助を必要としている人、援助する人のあり方、どう支援していくべきかなど他の科目と関連付けて学びを深めたいです。

### ●保健医療サービス論 佐藤 英仁 新潟

- ・身近な医療保険のことであったため興味深く、先生も分かりやすく具体的な事例を挙げて話していただいたので良かった。
- ・医療制度を正しく理解し、その制度を上手く使っていくことで生活に違いが出てくることを知り、参考になりました。

### ●社会福祉援助技術総論 佐藤 博彦 仙台

- ・私にとっては3回目のスクーリングでしたが、今回が一番リラックスして講義を受けることができました。理解しやすい事例とテンポよく授業が進みとても工夫されていると感じました。
- ・社会福祉士という相談援助を行う専門職について、その必要性や基盤となる背景について改めて学ぶことができた点が良かった。自己学習だけでは途中で挫折してしまいそうだったため、要点がポイントごとにまとめられており分かりやすかった。

### ●高齢者福祉論 中里 仁 仙台

- ・地域の中で高齢者を支えていくということが、具体的にどういうことなのかを理解することができました。この20年位の間で、高齢者福祉のあり方が大きく変化したこと、それが実践の中で生まれてきたということがよく分かりました。様々な困難があっても何かを動かすのは人の力なのだと感じました。
- ・高齢者福祉と聞くと、介護や認知症について理解を深めていくものと捉えていたが、実際には高齢者の尊厳、幸せ、生きがい、地域での生活などといった、包括的視点によって初めて、「一人の人間への福祉とは」という問いに行き付くのだと感じた。DVDを通して生き生きとした高齢者を見て、自分の地域や家族の「高齢者福祉」を改めて考えてみたい。